

トモネット英語塾 週刊英語レポート講座



**We may affirm absolutely that nothing great in the world
has been accomplished without passion.**

(もうすぐ除夜の鐘の音が響き渡る。鐘についている凹凸(いぼ?)は108つなんですって。)

著作権について

『トモネット英語塾、週刊英語レポート講座』（以下、本書と表記）は著作権法で保護されている著作物です。本書の使用に際しましては、以下の点にご注意ください。

1. 本書の著作権は、トモネット英語塾にあります。
2. トモネット英語塾の書面による事前許可なく、本書の一部または全部をあらゆるデータ累積手段（印刷物、電子ファイル、ビデオ、テープレコーダー等）により複製、流用および転載、転売することを禁じます。

使用者許諾誓約書

本契約は、本書を購入した個人・法人（以下、甲と称す）と、トモネット英語塾（以下、乙と称す）との間で合意した契約です。本書を甲が受け取り、パッケージを開封することにより甲はこの契約に同意したことになります。

第1条 本契約の目的

乙が著作権を有する本書に含まれる情報（ノウハウ等）を 本契約に基づき甲が独占的に使用する権利を有するものです。

第2条 禁止事項

本書に含まれる情報は、著作権によって保護されています。甲は本書から得た情報を、乙の書面による事前許可を得ずして出版・公演活動および電子メディアによる配信により一般公開することを禁じます。特に第三者に渡すことを厳しく禁じます。甲は、自らの事業、所属する会社および関連組織（販売店・代理店等）においてのみ本書に含まれる情報を使用できるものとします。

第3条 契約の解除

甲が本契約に違反したと乙が判断した場合は、乙は使用許諾契約書を解除できるものとします。

第4条 損害賠償

甲が本契約の第2条に違反した場合、本契約の解除に関わらず、甲は乙に対し、その違約金として、違反件数と販売価格を乗じたものの15倍の金額を支払うものとします。

第5条 責任の範囲

本書の情報の使用責任は甲にあり、この情報を使って損害が生じたとしても、乙は一切の責任を負いません。

「トモネット英語塾、週刊英語レポート」

著者(著作権者): 中西 智裕

■ はじめに

こんにちは、中西です。
2008年、最後の週刊英語レポートです。

振り返れば何とやらで妙に感慨深くもあります(笑)。

さてと、今日は大事な連絡がひとつありますので、
まずはそのお知らせをば。

実はまだ詳細をお伝えするためのサイトも何もないんですが(苦笑)、

2009年1月31日(土)に新年会を開催します。

場所は横浜、関内駅近く。
人数は MAX40名くらいの立食パーティーです。

時間は16時半～18時半まで。参加費はただ今交渉中。
(二次会がある場合は参加者には追って連絡します。)

で、新年会をやるならということで、
この機会にセミナーをやろうかと思ってます。(時間は14時～16時半の予定)

場所の関係でまた確実にやると決まったわけではないのですが、

やるからにはそーとー興味深い話はできるかと思しますので、
これは楽しみにしててください。

セミナーもしくは新年会のどちらか一方での参加も可能です。
(詳細は改めて年始にお伝えできると思います。)

そんなわけで、塾生専用の仮予約フォームを急遽、作成しておきましたので、
少しでも興味があるという場合は、

今スグ以下のフォームに必要事項を記入後、仮予約を済ませておいてくださいね。

(※当然のごとく、いちはやく参加表明をしてくれた方には、いい思いが待ってます 笑)

今スグというのは、セミナーにしても、新年会にしても場所の関係で人数に制限があるので人数がオーバーした場合は、先着順となる可能性大だからです。

では、どうぞー！！

<http://tommonet.com/mv/?138>

新年会 仮予約フォーム	
お名前 *	<input type="text"/> 必ずフルネームでご記入ください。
メールアドレス *	<input type="text"/> ミス 防止の為 <input type="text"/> 2回 入力お願いいたします。
2009年1月31日(土)の1セミナー(14時～16時半)に参加 *	<input type="button" value="▼"/> ※人数は30限定となります。

※注意

あくまで上記のフォームは「仮予約」であり、記入したからといってセミナーもしくは新年会への参加を約束をするためのものではありません。

仮予約者には、準備が出来次第、どこよりもメールにて早く詳細をお知らせしますので、そのときに参加するかしないかを判断してくださいね。

■ コラム:英語ができない人の共通点

ここ最近、いやこれは2008年という年を振り返って
ぼけーっとソファーに座って、天井をみながら考えていたんだけど、

英語を話せるようになる人にはある共通点がある。

そして、いつまで経っても英語が話せるようにならない人にも
同じくある共通点があることをこの原稿を書く数分前。

つまりついさっき発見した(笑)。

(本当は別のコラムを書いていたのだけれど、急遽、変更した。)

このことについて考え始めたのがトモネット英語塾をはじめた頃。

もうかれこれ2年くらい前のことなので、
2年経ってよーやく答えがボクの元へやってきた(歩いてきた)感じた。

※ 詳しくは 20 分エクササイズを参照

英語が話せるようにならない人の共通点。

逆にこれさえしっかりと認識しておけば、そうならないようにすればいいだけの話だ。
これはよーく覚えておくといい。(こんな話は誰も言わないからね。)

英語が話せない人たちの共通点。

もったいぶらずに言うとそれは「フォーカスをしない」ってことだ。
「フォーカスがない」と言った方が正しいかもしれない。

つまり、自分はこれをやっていくんだっていうフォーカスがない。

それがないと、世の中に氾濫する情報に振り回されまくってしまう。
あっちへふらふら、こっちへふらふら状態だ。

ボクたちは情報社会にいる。

これは、認識しようがしまいが、認めざるを得ない。

誰々さんの英語教材がいいと言われれば、教材を買い、
あそこの語学学校がいいと言われれば、入ってみたり・・・

まあ、経験をするという観点から言えば、

何でもやったらいいと思うんだけど、
(特に英語を勉強しはじめて1, 2年のうちは)

今日は1つ覚えておくといい。

自分が今、何の勉強をしているのかをしっかり
認識しておかないとエライことになるよってことだ。

「何の勉強」というのは、

英語の何を勉強しているのかってこと。

たとえば、英会話。
その中でもホームステイするのに必要なレベルの日常会話。

と、こんな具合に具体的にフォーカスしていくといい。

英語が話せるようになっていく人は、
自分が勉強している分野のことをしっかり見据えている。

そして、それ以外の情報は極力排除している傾向が非常に強い。

たとえば、メルマガだったり、テレビだったり、
雑誌などなど、必要のないものは、やらないし、触れないというスタンスだ。

なぜ、こんな事が必要なのかといえば、

人間だれもが1日24時間という限られた時間を生きていて、
その中で全部のことをマスターするなんてことは不可能だからだ。

※だからこそ、ネイティブのように話せるようになるなんてことを目指していたら悲惨な結果になる。

スポーツの世界ではよく言われることだけど、
1つのことをマスターするのには、1万時間必要だと言われている。

もっと言えば、1万時間の練習を経てようやく使い物になるし、
一流と呼ばれるようになるってこと。

1万時間というと、英語学習ダイアリーを使って
英語学習時間を記録していれば、ピンと来ると思うけど、

ざっと1日3時間やったとして10年かかる。
そう、土日休まずに毎日毎日3時間の練習をして10年かかる計算だ。

それでようやく一流(プロ)となる。

1日6時間だったら5年。

・・・途方もない時間が掛かる。

英語の場合は、ある程度の会話であれば、

正直ここまで掛かることはないし、キチンとした「考え方」と「学習戦略」があれば
4, 5年もあれば、英語を楽しむ側、英語を使って何かを学ぶ側には
立つことが余裕でできるはずだ。

ボクが英語は楽しむべきだという根本的な理由、
大原則として定義しているそもそもの理由はここにある。

英語は時間の掛かるものだ。

だったら楽しく行こうじゃないかと。

だけど、ほとんどの人は、

もうほっつとんどの人は、この時間を待つことができない。
(この時間こそが最高に楽しいプロセスなんだけどね。)

スグに英語をベラベラになりたい。スグに映画を字幕なしで見れるようになりたい。できるだけ楽に。

そう考えていると、結果的にはえらい遠回りをすることになる。

グッと待つ。楽しみながら気長に待つ。
辛抱できる人。

待つ能力。

これさえあれば、あなたが英語を話せるようになる確率はグンと上がる。
逆にスグにというなら、確率は下がる。

だからこそ、フォーカスしよう！
自分が今、勉強している分野を今一度確認することだ！！

絶対に情報の波にのみ込まれないように自己防衛することだ！！

これからは確実に自分の時間をタイムマネジメントができる人が
圧倒的に有利になる。そして、そんな人たちだけが着実に階段を上がっていける。

そんな時代が来る。

だからこそ日々、自分の土台を作り、その段階でなるべく多くの
自分だけの成功体験を築き上げておくといいよ。

ところで、前回の宿題はちゃんとできたかな？

あなたの資産は一体何に使われているだろうか？
情報を得て、自分のために活用するってのは、そーゆーことだ。

■ get on the train?それとも take the train?

次の日本語を瞬間的に英語に変えて
声に出して言ってみてください！！

シチュエーションは、

お正月。

里帰りのために電車に乗り込んだあなたは、
早速、電車に乗ったことを両親に知らせるため、

携帯電話を片手にこんな一言。

「(名古屋から京都までの)電車に乗ったよ。」

それでは、声に出して“瞬間的に”英語にしてみよー！！

間違っても、声に出していない状態で次のページへ行かないように！！
あなたの頭の中に眠っている英語集を呼び起こすのだ！！

さあ、どうぞ！！

今回用意した英文はこのふたつ。

I **got on** the train from Nagoya to Kyoto.

I **took** the train from Nagoya to Kyoto.

それでは、解説です。

基本的にバスや電車など、公共の交通機関に「乗る」のはget on～で表現しますが（これは暗記しておこう！！）、

他にも「乗る」という意味でtakeを使って表現できることは勉強熱心な方であれば知ってのとおりだと思います。

ただし、この2つはニュアンスが微妙に違うので、要注意。

まず、**get on the train** が持っているニュアンスというのは、**電車のドアに足を乗せたその“瞬間の行為”**を表すだけなのに対して、

take the train というのは**電車に乗って“目的地に向かうこと”をニュアンスに含んでいる。**ということです。

なので、

「電車に乗って名古屋から京都まで行く」というのは、

take the train to Kyoto とは言っても、
get on the train to Kyotoとは言わないわけです。

もう少し詳しく説明すると、

get on the train to Kyoto というのは
京都行きの電車に乗った行為、乗った瞬間そのものを問題にしているだけで

京都に着いたかどうかはあまり関係ないということです。

(ひょっとしたら、京都行きの電車に乗ったけれど、その前に下りてしまっているかもしれないし、通り越して大阪まで行ってしまっている可能性もあるということです。)

なので、目的地(京都)が決まっていてそこまで行くという場合は、**take** を使って表現するということをまずは覚えておいてください。

※ 今回、用意した英文はあえて詳しく書きましたが、実際は相手が今時分がどこにいて、どこへ向かっているのかを知っていれば、シンプルに、I just took the train. だけでも通じます。

もちろん take の代わりに get を使って、
get the train ということもできますが、(ほとんど同じ意味、ニュアンスです。)

これが **catch** the train となるとまたニュアンスが微妙に違ってきます。

catch [kætʃ] というのは、電車に乗り遅れそうな場合など、

急いでいる場合によく使われる表現です。

take や get よりも、catch の場合は、自分から掴まえにいくというニュアンスを持っているので電車に乗るという意味で使った場合は、

「電車にギリギリで間に合う」というような意味になります。

(ちなみに、乗り遅れるというのは、miss the train と言います。)

あとは、似たような意味で **ride** [raid] という表現も使うことはできますが、

補足までに説明しておくと、

ride が持つニュアンスというのは、**何かに乗ってから降りるまでのプロセス**をニュアンスに含んでいるので、

たとえば「3時間、電車に乗ったので疲れました。」という日本語を英文にするときは、

I **rode**(on)the train for three hours, so I am tired.と、こんな感じになるわけです。

乗ってから降りるまで。

これがわかっていれば、こんな日本語があってももう大丈夫！！

「私は普段はバス通勤です。」

バス通勤というのは、家の近くから乗車して、会社(の近く)までの道のりのことなので、英語にするとこうなります。

I usually **ride** the bus to work.

ですね。

(もしくは、I usually go to work by bus でもオッケーです。)

まとめると、

get on は乗り物に乗る、もしくは乗ったという**その瞬間**だけを伝えるのに使い、

take は**目的地までの過程**を表し(だからこそほとんどの場合、場所の名前が必要)、

catch は掴まえるというニュアンスが転じて、**焦る気持ち、ギリギリセーフ**というニュアンスを含み、

ride は**乗り物に乗ってから降りるまでの過程**をニュアンスに含むそんな表現。

この4パターンの違いがイメージできれば、何かに乗るという表現で困ることはまずなくなるはずです。

早速、あなたの経験に基づいた英文を4パターン作ってみよう！！
それでは今日はここまで！！

次回の週刊英語レポートは、年明け1月12日(月)～となります。
来年もよりコンテンツを充実させていく予定だからお見逃しなく！！

■ 最後に

We may affirm absolutely that nothing great in the world
has been accomplished without passion.

Georg W. Friedrich Hegel

「この世の中の偉大なことで、情熱なしに達成されたことは
まったくないと断言できる。」

これは間違いない。

情熱を持ちさえすれば必ず達成できる！！
……いや、そんなことはないな。

そんなことはないけれど、物事を達成した人たちは、
例外なく、情熱を持ってしぶとく、果敢に挑戦してきた人たちだということは確かだ。

365日が経てば、また1日から2009年がスタートする。

人生をリセットすることはできないけれど、
一年はあなたが生きている限り、何度もリセットされる。

そして、人間はいつだって変われる生き物だ。

というわけで、新年会には出ておこう(笑)。

<http://tommonet.com/mv/?138>

それでは、また来年！！

『トモネット英語塾』

塾長 中西 智裕